

# 令和元年度 氷見市教育総合センターだより 第4報

## 第2回 教育セミナー

8月9日(金)開催

演題 指導力のある教師が知っていること

講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二 先生



学級づくりにおける技術論だけではなく、その根底にある考え方や、教師の力量形成の過程までも示していただいた講演でした。講演の中で、教師としての「力量向上サイクル」に身を置くために、次の5点ができているかを問われました。

- ① 同僚と協力し合い、学んでいるか
- ② お手本となる同僚を探しているか
- ③ 成長のための研究会に参加しているか
- ④ 優れた教師となる目標をもっているか
- ⑤ どんな偉大な教師の中にも、さらに素晴らしい教師が潜んでいると思っているか

指導力を高めるために、どのように取り組んでいけばよいのかについて具体的な方向性を掴むことができる研修会となりました。

### <参加者の声>

- ・やる気と勇気もらった。何をやるにも、哲学と思想があり、その大元を信念としてもちながら指導していくことが大切であることを改めて感じた。
- ・教員を長くやっていると、いつのまにか初心を忘れ、長年の癖が身に付いてしまっていることに気が付いた。時代の流れに合わせて改善していく必要性を感じた。
- ・どの子供に対しても「大好きだよ」と言えるかと問われて、ドキッとした。自分の振る舞いについて考えさせられた。
- ・「どんな教師になりたいか」という理想の教師像がすぐに頭に浮かぶ。同じ職場で働いた先輩教員である。その先輩教員を目標に、これからも自分を磨いていきたい。

## ふるさと学習研修会

8月6日(火)開催

～ 十二町潟水郷公園、布勢の円山、仏生寺川、ひみラボ水族館 ～

ふるさと氷見に対する理解と愛着を深めるとともに、教材としての活用方法を探るため、新規採用教員等20名が、布勢の円山等で万葉集について講義を受けたり、胴長を身に付けて仏生寺川に入り水生生物の観察を行ったりしました。2学期からの授業等に生かしてほしいと思います。(指導してくださった小谷さんや西尾さんは、学校へ出向いての指導もしていただきます。)

### <参加者の声>

- ・布勢の円山から景色を眺めながら昔の様子の説明を聞いてると不思議な気持ちになった。長い歴史が積み重なって今の氷見があるのだと実感することができた。
- ・「川で魚を捕まえない」という子供がいたが、やらせてあげることができなかった。このような方法があるということを知り、是非協力していただきたいと思った。



## 氷見の子供たちの学力向上を目指して



今年度の全国学力・学習状況調査の結果が7月に公表されました。市内各小中学校には、夏季休業中に調査結果の分析を行い、改善策を策定していただきました。2学期からは、具体化された実践策に基づき、全校挙げて取り組まれることと思います。センターだより第4報では、学力調査（小・中教研学力調査および全国学力・学習状況調査）を通して見える本市の課題や、改善に向けた各小中学校の取組についてお知らせします。

まず、全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果について見てみましょう。

### ◆教科に関する調査の結果（平均正答率）

\*（ ）内の数字は全国平均との差

小学6年	氷見市	富山県	全国
国語	66(+2.2)	68(+4.2)	63.8
算数	67(+0.4)	69(+2.4)	66.6

中学3年	氷見市	富山県	全国
国語	75(+2.2)	76(+3.2)	72.8
数学	60(+0.2)	65(+5.2)	59.8
英語	55(-1)	57(+1)	56.0
「話すこと」	—	—	30.8

小・中学校ともに、国語、算数（数学）については、全国平均を上回りました。中学校英語（「話すこと」を除く）は全国平均に届きませんでした。

#### 〈国語科〉

小学校では、「書くこと」に課題が見られた。生活の中で気になったことを調べ、報告するための文章を書く場面を設定するなどして「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書く」「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書く」などの学習を意図的に行っていく必要がある。

中学校では、「書くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において成果が見られたが、「話すこと・聞くこと」には課題が見られた。友達の発言を注意して聞いたり、自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫して話したりすることができるように、話し合い活動を充実させていくことが必要である。

#### 〈算数・数学科〉

小学校では、「量と測定」の領域、「数学的な考え方」の観点が全国平均を下回った。基礎的・基本的な内容はある程度身に付けているものの、それを活用して解決することに課題があることが分かる。

中学校では、全国平均や県平均を下回る問題が多くあった。特に「図形」の領域、「知識・理解」の観点において課題が見られた。

#### 〈英語科〉

「聞くこと」、「話すこと」では、成果の見られた学校が多い。小学校からALTと触れ合う機会が多く、自然な英語に親しんでいたためであろう。今後は、話す力を一層伸ばすために、帯活動を充実させ、「やり取り」や「発表」の力が十分身に付くよう工夫する必要がある。また、4技能の統合型の活動や、まとまった英文の読み取り、「やり取り」を続ける活動、与えられたテーマでスピーチする活動等の、活用型の授業の充実と、活動の後に「書くこと」を徹底し、活用する力が身に付く指導を工夫することが求められる。

今回の調査から、従来の「主として『知識』に関する問題」と、「主として『活用』に関する問題」という区分を見直され、一体的に構成された問題となりました。「知識」を「活用」し、実生活の中で生かすことが一層重視されているようです。

それでは、児童生徒質問紙調査の結果はどうでしょうか。

### ◆児童生徒質問紙調査の結果 ～特徴的な傾向を示した質問事項～

○小学校 \*数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童数の割合

質問番号・質問事項	氷見市	県比較	国比較
(5) 自分には、よいところがあると思う	84.6	+ 2.6	+ 3.4
(10) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	84.9	+ 3.5	+ 5.9
(23) 今住んでいる地域の行事に参加している	84.2	+ 1.2	+16.2
(27) 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか…週1回以上使用する	54.7	+17.2	+24.1

(12) 学校に行くのは楽しいと思う	81.7	- 4.5	- 9.1
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか…1時間以上学習する	55.9	-10.2	-10.3
(42) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている	74.5	- 4.5	- 3.6

○中学校 \*数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒数の割合

質問番号・質問事項	氷見市	県比較	国比較
(7) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	90.9	+ 4.7	+ 6.3
(10) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	82.0	+ 8.9	+11.7
(23) 今住んでいる地域の行事に参加している	70.2	+ 8.1	+19.6
(63) スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う	54.7	+17.2	+24.1
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか…2時間以上学習する	23.9	- 1.0	-11.6
…1時間以上2時間未満学習する	46.3	+ 5.6	+12.0
(21) 読書は好きである	74.5	- 4.5	- 3.6
(57) 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	81.1	- 2.5	- 4.3

小学校では、「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童の割合が県及び国よりも高くなっています。昨年度は、県より-5.5ポイント、国より-4.5ポイントでした。自己肯定感の高まりが感じられます。一方、「学校に行くのは楽しい」と感じている児童の割合が国・県より低いことが課題と言えます。児童一人一人をしっかりと見つけ、達成感や成就感を味わう機会を意図的に設定して、これまで以上に学校生活が楽しいと思えるようにしていく必要があります。

中学校では、「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」と感じている生徒が国・県より多く、「話すこと」の好結果に結び付いたと言えるでしょう。

小・中ともに、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合が高い反面、「家庭学習に取り組む時間」の少ないことが課題です。家庭における学習時間を確保するとともに、家庭学習の質の向上を図っていく必要があります。



### ◆◆◆◆◆各 学 校 の 改 善 策 ◆◆◆◆◆

各学校では、明らかになった自校の課題を踏まえ、改善策を講じています。その一端を紹介します。

<学力調査等の活用ワークシート②より抜粋>

#### 授業改善

- 対話を軸にした授業づくり、ペアやグループ学習による自分の考えを説明する場の設定
- 子供の思考の過程が分かるワークシート等の作成と活用、見取りを検討する授業提案
- 課題設定と学習過程の工夫、できるようになったことを自覚する「省察の場」の設定
- 教師の発問の精度（分かりやすく、短く、端的に）の向上
- 国語科で、「自分の考えを書く」単元の学習を全校で重点的に実施
- 算数科で、ホワイトボードやタブレットPCを活用し、考えの根拠を示しながら説明する活動の充実
- 「考えのツール」「話すツール」の提示とICTの利用による考えの「見える化」
- 人と関わり合い、相手の反応に応じて対応する学習の推進



#### 基礎基本の定着

- 短時間学習や少人数指導を効果的に取り入れた指導の継続
- 朝活動「スキルタイム」の充実と、学びの記録の累積による自分の取組の可視化
- 計画的・継続的な反復練習と、各自の状況に応じた問題に取り組むことのできるタブレットの活用

#### 学習習慣の確立

- アクションプランや生徒会活動と連携し、生徒自身が家庭学習の計画、実行、振り返りを行う取組

#### 学習集団づくり

- Q-U調査の結果を基にした学級の人間関係づくりと、安心して発表できる雰囲気づくり
- 各教科や生徒の活動における学習リーダーの育成

#### その他

- 「こども新聞」を活用して、社会問題への関心を高め、読解力・文章表現力を伸ばすNIEの充実
- 「主体的に考え、行動し、互いに高め合う生徒の育成」を目指すアクションプランを中心とした取組
- 朝学習、授業、帰り学習で、基本問題に加えて発展的な問題に取り組ませるなどの工夫

昨年度に続き、外国語活動の実技研修会を開催しました。小学校教員を対象に平成29年度から実施しており、今回の研修で受講者数は96人になりました。

### 【研修内容】

- 「外国語教育ひみプラン」について
  - ・ふるさと教材（動画）と小中連携の教材（動画）の視聴
  - ・帯活動Q&Aタイム体験
- 授業の基本的な流れと T1 の役割
- 授業体験
  - ・チャンツ、ゲーム、道案内シミュレーション
- T1 体験
  - ・各班の代表が T1 としてミニ模擬授業を展開

### 〈参加者の感想より〉

- ・帯活動の QA タイムは子供たちの緊張をほぐすためにとても効果的だと実技を通して改めて感じた。
- ・子供たちが抵抗感なく「聞く」「話す」ことができるように、なるべく簡単な構文を使って帯活動を行うことの有効性が分かった。
- ・今まで何となく行っていた活動の意味を改めて考えることができた。「外国語を学ぶ」ことも大切だが、「外国語学習を通して学ぶ」ことがより大切だ。外国語活動は学級経営にも通じる。
- ・これまで外国語活動の授業をしたことがなかった。今回の研修で授業のイメージをもつことができ、大変参考になった。

I want a  
banana.

What do you  
want?

Sorry.  
Go fish!



## 新しいALTです。よろしくおねがいます!

Hi! My name is Kristabel Arcilla. My name is long and difficult to say, so please call me **Kei**. I am from Manila, Philippines.

The Philippines is a tropical country. Just like Japan, our country is an archipelago - there are 7,107 islands in the Philippines. We also have beautiful mountains, natural scenery, and gorgeous beaches.

Manila is an urban area like Tokyo. It is also busy and full of life. Many people live and work there. I studied in Manila, too. I graduated from the University of the Philippines. I studied Tourism, and studied International Studies (Asian Studies) in graduate school. I learned Japanese in university because I love Japanese culture and I want to learn about Japanese society and its traditions.

ALTs teach English to children, but we also teach about our country's culture. I want to share the Filipino culture to the people of Himi. Like Japanese culture, the Filipino culture is rich, diverse, and colorful. We have great food, and we also love sweets, like the Japanese do.

I like staying indoors but I also love shopping, so if you see me in the supermarket or getting lost in the streets of Himi, don't be shy and please say hi! I want to get to know everyone. Let's practice English together! ☺